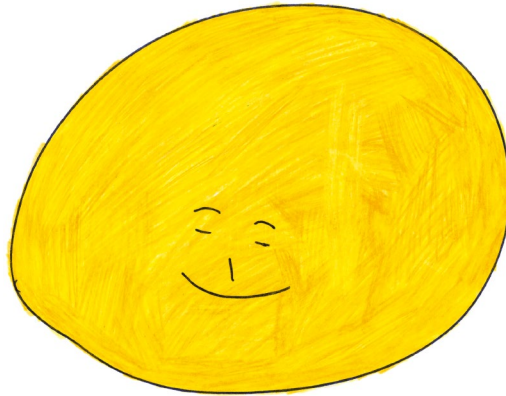


指定障害者入所施設の自閉症入所者が描いた作品です。思いを言葉で伝えることが難しい人ですが、いつも穏やかで和ませるような雰囲気があり、本人なりの表現方法をもった個性豊かな人です。絵を描くときは、自分の世界に入ったように集中して描きます。この「おつきさま」を描くときも集中して取り組み、円の中を隙間なく奇麗に塗り上げました。そして、この優しく穏やかな表情は、本人の個性が表れているかのように思います。でき上がった作品を見たときは、優しい気持ちになり癒されるようでした。

この作品を見た方々が優しい気持ちになっていただけたら嬉しく思います。（担当生活指導員：田中美紗都）



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



小林昌幸「柿」

46歳ころに「脊髄小脳変性症」と診断されました。約2年後には車いすでの生活となり、このころより趣味活動であった油絵を描くことをやめてしまわれます。しかし60歳ころに訪問リハにて絵画活動を再開し、約3年間で50作品（油絵・スケッチ・色鉛筆画含む）を描かれました。

現在は視覚障害増悪、失調症状がさらに増悪し、絵画活動は休止されています。

この「柿」は絵筆で描くだけでなく、絵筆の柄の部分を使用して一つひとつ丁寧に柿を実らせていきました。ご本人、ご家族様もお気に入りの作品です。（担当 OT 高橋）